

一月の第二月曜日、日本中の多くの市町村で成人式が開催されます。数ある中から自分の目で選べ、日本の伝統美の結晶ともいえる振袖を知り、大人への第一歩を踏み出していき...、一生に一度の成人式の日や家族と写真を撮った思い出は、かけがえのない幸せの記憶となり、これからの人生を応援してくれるに違いありません。

振袖って何？ 成人式って何？

子供のきものだった「振袖」

室町時代、振袖は「振り」と「身八つ口」のあるきものという意味で、主に元服前(まだ一人前として認められていない)の男女のきものでした。大きく脇が開いたきものは、大人に比べ体温が高く、よく動き回る子どもたちにとっては、体温調整機能のある実用的なデザインだったのです。そして大人として認められた後は、袂を短く切り、「振り」を縫い込んで「小袖」として着用しました。時代は変わり、江戸時代後期の華やかな町民文化のなかで、きものにますます装飾性が求められるようになっていきます。帯の幅も広くなり、「振り」が縫い込まれていると、帯を高い位置で締めることのできるため、自然と大人の着る小袖も振りや身八つ口のあるものへと変わっていき、そして袖の長いものは「振袖」、振袖を切り、縫い留めたものを「留袖」と呼ぶようになっていきました。

明治時代、未婚女性の第一礼装に

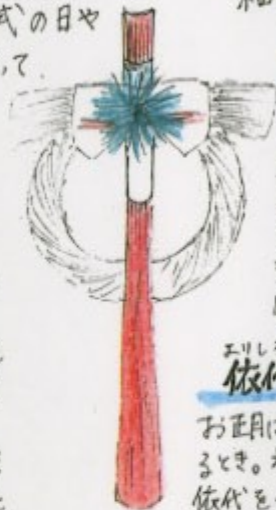
明治時代に入ると、振袖の袖丈はますます長くなり、袖が長いほど格調が高く、改まった席にふさわしいといわれるようになっていきました。未婚女性の第一礼装として定着したのもこの頃です。名称も袖の長さ別に、大振袖(約115cm)、中振袖(90cm)、小振袖(75cm)に分けられました。上流階級では、普段着には小振袖、お出かけには中振袖、結婚式など正式な場所には大振袖と着分けしていました。

「成人式の日」と「振袖」

さて、成人式はいつ頃が始まったのでしょうか？戦後間もない昭和21年、埼玉県蕨町の青年団が戦地から戻った若者を励まそうとして行なった「成年式」がきっかけとなりました。これが評価され、昭和23年に「国民の祝日に関する法律」が設けられたときに、「成人の日」として1月15日が国民の祝日に認定されたのです。現在は、平成12年の法律改正で、1月の第二月曜日が「成人の日」となっています。

人生の災難や病気を振り払う力を得る

万葉の時代から、袖を振る行事が歌にも詠まれています。振袖には「長い袖で厄邪気を払う」力があると信じられてきました。特に十九歳は女性の厄年。さまざまな災難や病気を身を守るため、十九歳の厄年に振袖を新調し厄払いをするという風習が盛んになります。成人式前に娘に振袖を贈ることは、一つのお清めであり、良い縁を招き、幸せな人生を呼び寄せてほしいという両親や家族の願いでもめぐるのです。



水引のお正月飾り

すべてが円満でありまうようにとの願いを込めた白い輪に、天と地を結ぶ赤い直線を合わせたお正月飾り。白は昇る朝日のシンボル、赤は次々日のシンボルで、陰陽の合は、新たな物事が生まれる力を指す象徴といわれています。

依代... 歳神様をお迎えする場をつくる

お正月は、一年に一度、家々に歳神様が降りてくるとき。わたしたち日本人は、松飾りや鏡餅をしつらえて依代をつくり、歳神様を迎えます。行く年のお返しと来る年の無事を祈り、一。

ハレの場... 結界を設け、清浄な空間をつくる

白い和紙は「清浄」の象徴で、神様の依代であるお正月飾りには、今年一年の穢れを払い、心身ともに清らかな新年を迎えるために清浄な空間である「ハレの場」をつくる意味が込められます。

寿ぎ... めでたさを金銀に託す

寿ぎとは、言葉で祝うこと。新年の初めは今年一年ふいふいがあるようにと祝いの言葉を述べ讃えます。

冬の決まり事

12~2月はきものも長襦袢もコート・羽織もすべて袷にして暖かくなります。絹は重ねて着るととても暖かいので、見た目よりも快適です。上着類は別珍やワール、毛皮などを重ねるのもいいでしょう。衿元が寒い場合は、ショールやマフラーで防寒します。

ふみこのきものでほっこり

元東伏見宮家別邸 吉田山荘

東山三十六峰の一つに数えられる吉田山の中腹に位置し、昭和7年に東伏見宮家の別邸として建てられた由緒あるところ。戦後は料理旅館となり、季節に合わせた食材を伝統に沿った京料理に仕上げたご提供しています。

- 定休日: 不特定
- 期間: 1月10日(土)~3月18日(木) ※但し、3/1(日)~28(日)は除く
- 時間: 二部制 @ 11:30~13:00 @ 13:15~14:30
- 料金: お一人様 9,400円(税別)

= 玄翁さんに教わる季節の禅語 =

1月 無功德(むくどく)

正月、禅寺では達磨大師の軸を飾る。達磨大師は6世紀に中国に渡り、まず梁の国の武帝と会見。自ら仏教への帰依と支援を語り、自分にはどんな功德があるかと問う武帝に達磨大師は一言「無功德」、ついで功德など無いと放つ。我慢したり、功德を期待したりすると、真理は遠のく。

あらたま... 原点に戻り、心新たに新年を祝う

「あらたまの」は、和歌における年月などにかかる枕詞です。振り出したまの玉を表す「新玉」「瑠璃」に由来しているといわれ、新年の荒々しい生まれだての魂、あるいは再生した魂に通じるともいわれます。お正月は自分を見直す時期。過去を振り返り、未来を考える節目です。



第三号

本年も御愛読
おねがひします

2015 睦月
January

● 予約先: 吉田山荘
左京区吉田下大路町59-1.
TEL: 075-771-6125
● (前日までに要予約)

● このプランは、食器懐石(1人1000円)と予約ください。
● 満席や定休日などにより予約できない日や個室のご用意できない場合もあります。
● このプランは、2名様からのお申込みとなります。